緑の地球を子どもたちへ

パック連通信

No.142 2026年3月10日発行
全国牛乳パックの
再利用を考える連絡会

事務局：山梨県大月市御太刀 1-2-10
TEL. 0554-22-3611

飲料用紙パック回収システム強化検討会を開催

去る2月26日、ビジョンセンター東京駅前の会議室にて「第3回飲料用紙パック回収システム強化検討会」を開催しました。

国機関より5名、紙容器メーカー3名、紙パック受け入れ製紙メーカー10名、古紙回収事業関係団体及び事業者5名、関西ミルクロードの会より2名、メディア2名、事務局3名（うちリモート参加5名）による情報及び意見交換を行いました。

はじめに事務局からの基調報告に先立ち、容環協調査による2024年実績の紙パックの回収率を確認しました。損紙を含む回収率が38.9%、使用済み紙パック回収率が 30.1%と数字的には前年よりそれぞれ 0.1%、0.3%増ということでしたが、回収量を見ると損紙を含む紙パック回収量は、76,100t、（前年に比べ2,000t減）、使用済み紙パック回収量は51,100t（前年に比べ1,000t減）という結果でした。

基調報告は各地の回収事例を紹介させていただきました。

都内の小学校2事例については、コロナ禍の 2020 年に、教育委員会の指導や栄養教諭による模索を経て、学乳パックリサイクルを開始したという取り組みを紹介。もう1校の天草市五和小学校については、熊本の田中商店さんに補足していただきました。生活協同組合としてはパルシステムが、年1～2回受け入れのマスコ―製紙への見学を実施し、チラシを通じて牛乳パックがトイレットペーパーになるまでのシステムを知らせるなど、組合員へ回収協力を働き掛けている事例を紹介（2024 年度実績 1,000t）。個人活動ではありますが、漫才師の林家カレー子さんがひまわり・環境寄席、笑顔寄席において牛乳パック10枚とトイレットペーパー交換企画を行っていて、寄席の開催時間約3時間で6,000枚～9,000枚（200 kg～300 kg）を回収している事例を紹介。

また今検討会に向けて、個人的に高齢者施設にて小型紙パックのリサイクルに取り組んでいる方や、福祉施設や福祉事業所に現況についてヒアリングを実施して、それぞれからの回答を紹介いたしました。（福祉施設関連の回答は2ページの表をご参照ください。）

このほか関西ミルクロードの事務局から、新たな牛乳パック回収の切り口として、関西の「辻調理専門学校」（東の服部、西の辻調と表現される調理名門校）による取り組みをご紹介いただきました。調理現場から環境問題に取り組めないかと考えられていた「辻調」の先生からの問い合わせをきっかけに、地域の福祉作業所の仕事づくりに縁をつなぎ、学校の調理現場で出た紙パックを生徒が洗い、福祉作業所が回収を行う連携が生まれているそうです。

このように、個々が中心となって懸命に取り組んでいる牛乳パックリサイクルでありながら、止まらない回収量の減少に、参加者から事業者側の拡大生産者責任を問い、再商品化義務を課すべきとの意見が出されました。

福祉事業所名	回収状況		回収量 Kg ／ 年	回収にあたっての 工夫・作業内容	牛乳パックリサイクルに 取り組んでよかったこと	困っていること
(社福)ひびき　つながりの家	横這い	主に近隣の住宅からパックを回収しているので特に変化なし	240～300	ひびきのパンフレットに回数している旨を書いている	地域の人々と交流が生まれること	
(社福)かがやき神戸 なでしこの里	減ってきている	提供していただける店舗が少なくなった	8～12		牛乳パックを再利用し製品をつくることで利用者の仕事や工賃につながっていること	安定した紙パックの回収できる場所(店舗)があればと思う
(社福)おりづる　おりづる作業所	横這い	定期的に家族や地域の方々が回収に協力してくれている	80	利用者の家族に回収の案内を出したり、地域の資源回収の継続でつながりを作っている。回収した牛乳パックを利用して手漉き製品つくりを行っている。	障害の重い方たちの仕事つくりにつながっており、製品作りで社会とのつながりにも活かせている。回収時に地域とのつながりも大切にできている	アルミ付き紙パックなが混在し、仕分けが大変なこと
NPO法人いしずえ　自立生活センター　レインボーワーク	減ってきている	近所からの回収が少なくなった	8～12	利用者さんのご家族に協力をお願いしている	利用者さんの仕事の一環になっていること	牛乳パックを持ってきてくれるのは嬉しいが、洗っていない、洗い方が雑など、臭いがひどい時がある。 回収する中にアルミ付き紙パックが最近多いような気がする
松本社会福祉協議会 松本市希望の家	横這い	住民の方からの回収量は減っているが、地元の企業より牛乳パックをいただけたので横這い	48	地域へチラシを配布したりして、回収していることを周知している	リサイクルして自主製品を作成したり、業者へ持っていくことで、利用者さんの工賃になり、リサイクルへの意識も高まっている	
(社福)いこま福祉会きこり	横這い	徐々に減ってきているのは感じているが、新たに協力してくれる牛乳販売業者が見つかり、当所としてはあまり変化はない	360	定期的に決められた公民館、就業所にせっちしてある回収ボックスから取るようにしている	定期的に回収業者に納めに行くことが利用者さんの仕事になり、収入にもなっている	時々、アルミ付き酒パックや紙パックが入っていて普通ごみに分別しなければいけない手間がかかる
紙好き交流センター麦の会	減ってきている	店頭回収や自治体回収により、個人の協力者がそちらに流れていってしまったため	6t～7.2t	回収拠点を作ってもらっている	人とのつながりができた	口栓付きなど紙パックの様子が変わってきた
(社福)くさのみ福祉会 くさのみ作業所	横這い	大型スーパーの協力により安定した回収ができている 作業所でも回収ボックスを設置したり、地域へ回収の呼びかけをしている	5.04t	協力いただいているスーパーで分別の呼びかけ等かんりいただいているため、作業所で大きな作業は行っていない 作業所の利用者と協力して回収した牛乳パックを仕分けている	利用者が仕事へのやりがいを持って取り組めている　回収先のスーパーとのつながりを持てている　回収や自主製品作りを通して、環境を守ることに貢献している役割意識を、利用者に持ってもらっている牛乳パックにまつわる仕事が利用者の枠割の大きな柱となっている	汚れているパックやごみが入っている場合があり、特に夏場は臭いもあり、衛生的に心配
(社福)桃花塾	減ってきている	牛乳を飲まれる方が少なくなってきている 少子化のため	27.6t	スーパーマーケットより提供してもらっている 地域からはマンションの回収をしている	回収に当たり地域の方との話し合いを通じて顔の見える関係ができ、事業所側の考え方等伝えられ、理解を深めてもらったこと	資源回収ポイント制を導入したスーパーでは自社ルートに乗せるようになったため、紙パックが回収できにくくなっている

3 回にわたって開催した飲料用紙パック回収システム強化検討会は、関西地域でメーカーが何の協議もなく進めた紙パックとアルミ付き紙パックとの混合回収により、回収現場を支えている福祉事業所等へ影響が出たことに端を発し、関係者が協議し、情報・意見を交換する場の必要性を感じセッティングいたしました。

パック連通信でも報告いたしましたが、事前に農水省・経産省・環境省の各関係部署をまわり、また回収事業関係団体へも現在起こっている問題を含め情報提供をいたしました。いずれも検討会立ち上げに理解を示して下さり、環境省だけは最後まで何の返答もありませんでしたが、2 省の関係部署をはじめ、受け入れ製紙メーカー、回収事業関係団体、紙容器メーカー、北は北海道から南は熊本、関西からの参加も得て、関係者が対面にて意見を交わす貴重な場となったことは確かです。

毎回オブザーバーとしてご参加くださったメディアの方が「こうした腹を割った意見を伺う場はなかなかないので、牛乳パックについて起きている課題をどう社会に向けて紹介するかということで、このような場があればまた参加したい」と感想を述べられていました。